

相模原商工会議所 景気観測調査結果

(令和3年7月～9月)

新型コロナウイルス感染症第5波の発生と、原料・資材不足や賃金上昇により、回復基調にあった景況が、再び停滞してきている。

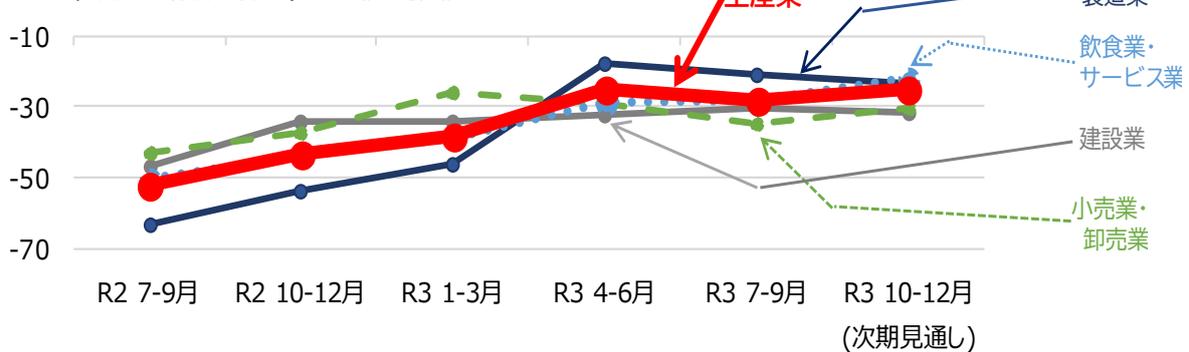
ポイント

- ▶ 令和3年7月～9月期の総合業況DIは▲28と、前期▲25から3ポイントの悪化。建設業(前期▲32・今期▲30)は小幅の改善。前期大幅な回復がみられた製造業(前期▲18・今期▲21)、飲食業・サービス業(前期▲25・今期▲28)は、改善の勢いが止まり悪化に転じた。小売業・卸売業(前期▲29・今期▲35)は前期に引き続き、小幅の悪化が続く。
- ▶ コメントによると、コロナ禍による売上減少だけではなく、原材料や資材の高騰、賃金の上昇、在庫不足による販売低迷など、厳しい状況が続きつつも、その要因は多様化・複合化しているようである。特に製造業は、海外需要を中心に景況が戻りつつあったところに、原料・資材の不足・高騰が発生し、回復を妨げている格好である。
- ▶ 次期見通しについては、総合業況DIは▲25と、今期▲28から3ポイント改善の見込み。飲食業・サービス業(今期▲28・次期▲22)と小売業・卸売業(今期▲35、次期▲30)はやや改善、製造業(今期▲21・次期▲23)と建設業(今期▲30・次期▲31)はほぼ今期並みとなる見込みである。

各業界から寄せられたコメント

- ・【電子部品の製造販売】中国、米国向け需要が活発となり、半導体や自動車等の設備投資が加速。2月頃より受注が活況。
- ・【建築・土木工事、遺跡発掘支援、共同住宅清掃】コロナ長期化に伴う民間需要減退により公共工事受注競争が激化、資材価格の高騰、人材不足が相まって厳しい経営環境。
- ・【食品、雑貨、アルコール】新型コロナウイルス感染症第5波の影響で客足・売上高が減少。
- ・【パソコン教室】顧客がコロナに慣れし、マンツーマンしか申し込みなく多人数教室が開けない。オンラインでの授業も慣れてしまい目新しさが無い。

業況別（総合判断） DI値の推移



	前年同期概要 (R2.7-9)	前々期概況 (R3.1-3)	前期概況 (R3.4-6)	今期概況 (R3.7-9)	次期見通し (R3.10-12)
製造業	▲63	▲46	▲18	▲21	▲23
建設業	▲47	▲34	▲32	▲30	▲31
小売業 卸売業	▲43	▲26	▲29	▲35	▲30
飲食業 サービス業 全業種	▲50	▲39	▲25	▲28	▲22
(総合)	▲52	▲38	▲25	▲28	▲25

業況天気図凡例

DI値 50以上	DI値 30~49	DI値 10~29	DI値 1~9	DI値 0以下
----------	-----------	-----------	---------	---------

調査期間：令和3年7月1日～9月30日
 回答率：26.5% 回答者数：980件
 調査対象：当所会員事業所3,700社

景気観測調査

前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。
 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる